社会資本総合整備計画　事後評価

歴史・文化を活かした都市公園の整備

令和4年11月

奈良県 橿原市

評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	橿原市	計画期間	平成29年度～令和3年度	全体事業費	895,000　千円
計画名	歴史・文化を活かした都市公園の整備						
計画目標	5世紀後半から6世紀前半にかけて造られた約600基の古墳からなる県下最大の新沢千塚古墳群と推古天皇・竹田皇子の墓との説がある植山古墳の両古墳は、ともに国指定史跡となっている。これら文化財の特色を活かし古墳の持つ学術・文化的価値への理解を深めるとともに、健康促進、交流促進、観光振興に寄与する公園整備を行う。						

		事業名		削除・追加した理由		削除・追加による指標等への影響
1)事業の実施状況	基幹事業	A-1 A-2	都市公園事業(新沢千塚古墳群公園) 植山古墳公園整備事業			
	関連社会資本整備事業					
	効果促進事業					
		当初		変更	―	

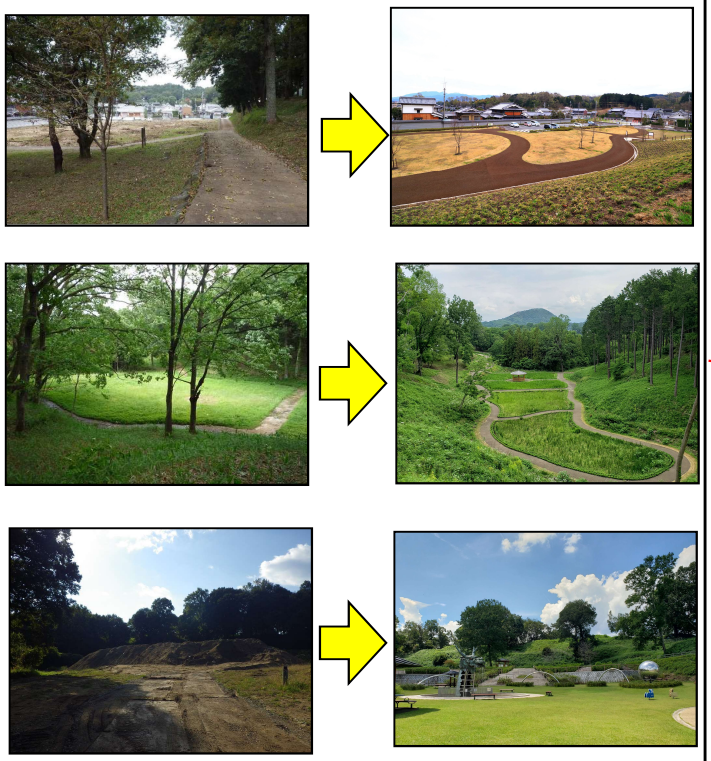
	指標		単位	当初現況値	最終目標値	最終評価値	達成度※	達成見込みの有無		所見（効果発現要因等）
				H29当初	H33末	R3末		あり	なし	
2)社会資本総合整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標1	１０人当たりの都市公園面積を８５㎡/１０人から９３㎡/１０人に向上	㎡/10人	85㎡/10人	93㎡/10人	96㎡/10人	○			令和3年度の事業の完了時には、植山古墳公園及び新沢千塚古墳群公園が追加供用された。これによって都市公園供用面積が増加し、整備計画策定時に設定した最終目標値を達成するとともに、地域住民が交流を深められる「緑豊かな憩いの場」が確保された。
	指標2	新沢千塚古墳群公園と植山古墳公園の来園者数をＨ２９当初から２０%増加させる	%	―	20.0%	6.0%	△			平成31年度時点の伸び率は26%であり、最終目標値を上回った。しかし、世界的なコロナ感染拡大による影響から、令和2年度より来園者数の減少が見受けられた。これは新沢千塚古墳群公園にあるシルクの杜が感染予防対策として一時休館や入場制限を設けていたことが主な要因と考えられる。しかし、公園のみの利用で見ると順調にその数は増えてきている。今後もコロナの感染対策を講じながら、幅広い年齢層の方に親しみを持って利用してもらえるように適切な管理運営を行い、来園者数の増加を図っていきたい。
	指標3	歴史・文化に関連した主要施設の来館者数を１２２，３７３人（Ｈ２９当初）から１５５，０００人（Ｈ３３末）に向上させる。	人	122,000人	155,000人	40,320人	×			令和2年度の来館者数は27,180人と平成15年からの統計を見ても、過去最低となった。県立橿原考古学研究所付属博物館の休館だけではなく、コロナ感染拡大による外出自粛による影響が大きいと思われる。しかし、令和3年度には40,320人と回復している。今後は目標値を達成できるように適切な施設の運営管理を行っていく。

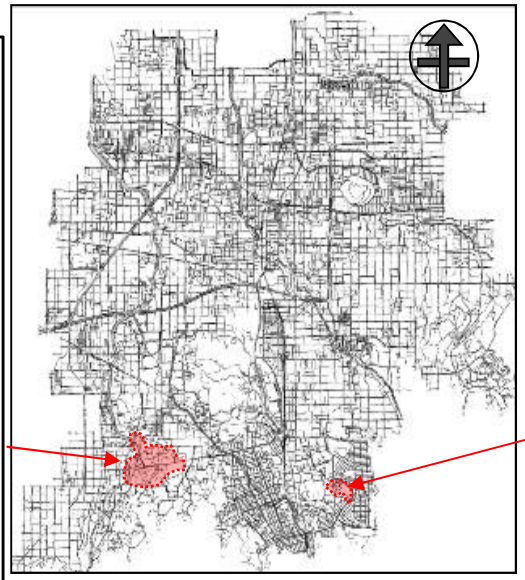
※達成度　○ :評価値が目標値を達成、あるいは上回った場合　△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合　× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

3)定量的に表現できない定性的な効果発現状況	両公園では園路が整備され、古墳へのアプローチが容易となり、来園者が史跡を間近に感じられるようになったことで古墳の持つ学術・文化的価値への理解がしやすくなった。新沢千塚古墳群公園では、温浴施設やトレーニング施設等を有するシルクの杜が建設されたことにより市民の健康促進へと繋がった。また、公園と古墳、健康増進施設や歴史博物館等の施設を一体的に整備・運営することにより、多世代の市民が交流できる場が設けることができた。そして、計画目標であった機能を備えた公園整備を行ったことで、それぞれの公園利用価値が高まり、観光振興への貢献度も高まった。

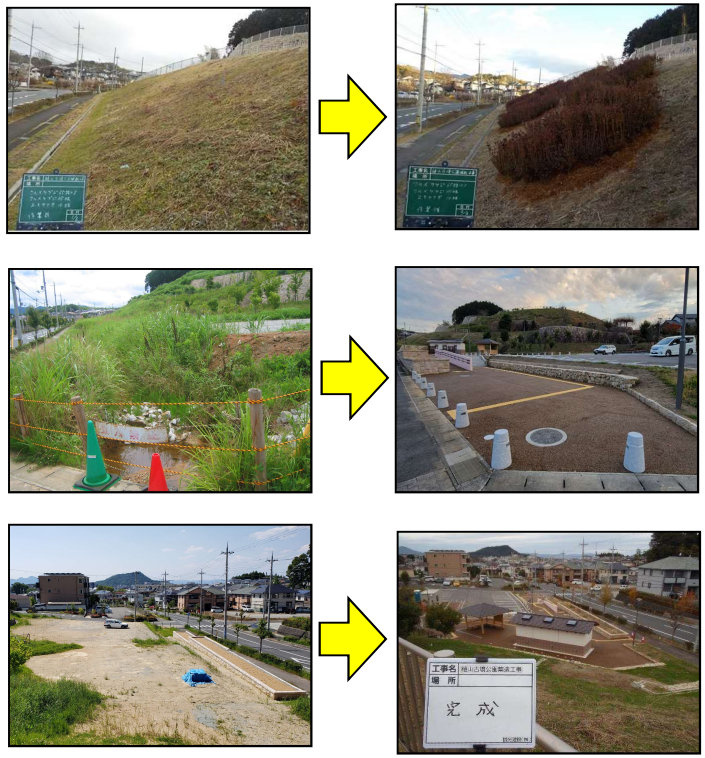
4）地区の概要

A-1　新沢千塚古墳群公園
都市公園整備事業





A-2　植山古墳公園
都市公園整備事業
（公園整備）



5）総合所見	新沢千塚古墳群と植山古墳の両古墳の公園整備を行うことにより、市民一人あたりの都市公園面積の目標値を達成した。一方で両公園の来園者数や歴史・文化に関連した主要施設の来館者数については、コロナ感染拡大の影響により最終目標値を下回ることになった。しかし、コロナ過以前の来園者数（H31年度実績）ではすでに最終目標値を上回っていたため、今後の来園者数は期待できると考える。また公園を整備することにより、市民の学術・文化的な理解を深める場を創出でき、新たな観光拠点を構築できた。
6）今後の方策	本市には、日本最古の都でもある藤原京、橿原神宮、今井町重要伝統的建造物群保存地区や古墳群など日本有数の歴史資源がある。更に新沢千塚古墳群と植山古墳の両古墳の整備を行ったことにより、学術・文化的価値の理解を深める場を創出できた。今後は両公園を利用した校外学習などを通して歴史教育を推進していき認知度を高めていく。また、新沢千塚古墳群公園においては、指定管理者・P－PFI制度を利用した運営が始まっている。民間活力を生かしての新たな賑わいづくりと観光地の創出を行っていく。そして幅広い世代が親しみを持って利用して貰えるように公園の管理運営を行っていく。

社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和05年02月16日

計画の名称	歴史・文化を活かした都市公園の整備		
計画の期間	平成２９年度　～　平成３３年度　(5年間)	重点配分対象の該当	○
交付対象	橿原市		
計画の目標	5世紀後半から6世紀前半にかけて造られた約600基の古墳からなる県下最大の新沢千塚古墳群と推古天皇・竹田皇子の墓との説がある植山古墳の両古墳は、ともに国指定史跡となっている。 これら文化財の特色を活かし古墳の持つ学術・文化的価値への理解を深めるとともに、健康増進、交流促進、観光振興に寄与する公園整備を行う。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	895	A	895	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H29当初)	(H31末)	(H33末)
1	１０人あたりの都市公園等面積を８５㎡/人（H２９当初）から９３㎡/人（H３３末）に向上させる。			
	１０人あたりの都市公園等面積 都市公園等の供用面積（㎡）÷橿原市の人口（人）×１０	85㎡/人	92㎡/人	93㎡/人
2	新沢千塚古墳群公園と植山古墳公園の来園者数をH２９当初から２０%増加させる。			
	新沢千塚古墳群公園と植山古墳公園の来園者数の増加率	0%	10%	20%
3	歴史・文化に関連した主要施設の来館者数を１２２，３７３人（H２９当初）から１５５，０００人（H３３末）に向上させる。			
	歴史・文化に関連した主要施設の来館者数	122000人	137000人	155000人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

案件番号：　0000448837

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H29	H30	H31	R02	R03	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	橿原市	直接	橿原市	－	－	植山古墳公園整備事業（A-2）	公園整備（１．７ha）	橿原市	■	■	■	■	■	140		－
	A12-002	公園	一般	橿原市	直接	橿原市	－	－	都市公園事業（新沢千塚古墳群公園）（A-1）	公園整備・用地購入（２５．７ｈａ）	橿原市	■	■				755		－
											小計						895		
											合計						895		

案件番号： 0000448837

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
橿原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会規定に基づき、橿原市社会資本総合整備計画庁内評価委員会を開催した。今年度は、コロナの状況を鑑み書面開催とした。	令和4年11月
	公表の方法
	橿原市役所ホームページ

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	新沢千塚古墳群と植山古墳の両古墳の公園整備を行うことにより、市民一人あたりの都市公園面積の目標値を達成した。一方で両公園の来園者数や歴史・文化に関連した主要施設の来館者数については、コロナ感染拡大の影響により最終目標値を下回ることになった。しかし、コロナ過以前の来園者数（Ｈ３１年度実績）ではすでに最終目標値を上回っていたため、今後の来園者数は期待できると考える。また公園を整備することにより、市民の学術・文化的な理解を深める場を創出でき、新たな観光拠点を構築できた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	両公園では園路が整備され、古墳へのアプローチが容易となり、来園者が史跡を間近に感じられるようになったことで古墳の持つ学術・文化的価値への理解がしやすくなった。新沢千塚古墳群公園では、温浴施設やトレーニング施設等を有するシルクの杜が建設されたことにより市民の健康促進へと繋がった。また、公園と古墳、健康増進施設や歴史博物館等の施設を一体的に整備・運営することにより、多世代の市民が交流できる場を設けることができた。そして、計画目標であった機能を備えた公園整備を行ったことで、それぞれの公園利用価値が高まり、観光振興への貢献度も高まった。

○特記事項（今後の方針等）

本市には、日本最古の都でもある藤原京、橿原神宮、今井町重要伝統的建造物群保存地区や古墳群など日本有数の歴史資源がある。更に新沢千塚古墳群と植山古墳の両古墳の整備を行ったことにより、学術・文化的価値の理解を深める場を創出できた。今後は両公園を利用した校外学習などを通して歴史教育を推進していき認知度を高めていく。また、新沢千塚古墳群公園においては、指定管理者・P－PFI制度を利用した運営が始まっている。民間活力を生かしての新たな賑わいづくりと観光地の創出を行っていく。そして幅広い世代が親しみを持って利用して貰えるように公園の管理運営を行っていく。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	10人当たりの都市公園面積を85m2／10人を93m2／10人に向上させる		
	最　終 目標値	93㎡/人	令和3年度の事業の完了時には、植山古墳公園及び新沢千塚古墳群公園が追加供用された。これによって都市公園供用面積が増加し、整備計画策定時に設定した最終目標値を達成するとともに、地域住民が交流を深められる「緑豊かな憩いの場」が確保された。
	最　終 実績値	96㎡/人	
2	新沢千塚古墳群公園と植山古墳公園の来園者数をH29当初から20%増加させる		
	最　終 目標値	20%	平成31年度時点の伸び率は26%であり、最終目標値を上回った。しかし、世界的なコロナ感染拡大による影響から、令和2年度より来園者数の減少が見受けられた。これは新沢千塚古墳群公園にあるシルクの杜が感染予防対策として一時休館や入場制限を設けていたことが主な要因と考えられる。しかし、公園のみの利用で見ると順調にその数は増えてきている。今後もコロナの感染対策を講じながら、幅広い年齢層の方に親しみを持って利用してもらえるように適切な管理運営を行い、来園者数の増加を図っていきたい。
	最　終 実績値	6%	
3	歴史・文化に関連した主要施設の来館者数を122,373人(H29当初)から155,000人(H33末)に向上させる		
	最　終 目標値	155000人	令和2年度の来館者数は27,180人と平成15年からの統計を見ても、過去最低となった。県立橿原考古学研究所付属博物館の休館だけではなく、コロナ感染拡大による外出自粛による影響が大きいと思われる。しかし、令和3年度には40,320人と回復している。今後は目標値を達成できるように適切な施設の運営管理を行っていく。
	最　終 実績値	40320人	